

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 名古屋市立名東高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒465 - 0064

愛知県名古屋市名東区大針一丁目351番地

E-mail [kokusai-pt.meito-h@nagoya-c.ed.jp](mailto:kokusai-pt.meito-h@nagoya-c.ed.jp)

[meito-h@nagoya-c.ed.jp](mailto:meito-h@nagoya-c.ed.jp)

Website <http://www.meito-h.nagoya-c.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子 455名 女子 617名 合計 1,072名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「Go global! Go higher! Go for it!—世界に臨み、高きを求め、自ら歩む」を学校理念としており、「真の国際人を目指す国際理解教育とESD」を大きなテーマとして活動している。本校は普通科、国際英語科の併設校であるが、今年度はユネスコスクールとして学校全体で取り組むホールスクール・アプローチの推進を掲げ、「名東版ESD」の実践に取り組んだ。「ESD=持続可能な開発のための教育」を「誰もが豊かで幸せに暮らせる社会を目指して、自ら学び、考え、行動すること」と捉え、「名東版ESD」の実践を通して以下のような力の育成を目標とした。

- ①社会とのつながりを意識し、よりよい世界を構想する力
- ②自ら課題を設定し、調査研究を行い、探究する力
- ③自分の考えをまとめて、他の人にわかりやすく表現する力
- ④他人と協力して議論しながら、一緒に問題解決をする力

各教科科目、学校行事、合同HRでのESDセミナー、ワールドスタディーズの授業などを通して、ESDのテーマについて探究し、論理的思考力、問題解決力、文章読解力、表現力を豊かにし、学力の三要素である知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、そして主体性・協調性を育成していくことを目標としている。

### ①人権・平和・環境に関わる教育

○1年生「ESD」を軸とした活動プログラム（普通科、国際英語科）

(1)ESD ガイダンス（テーマ：人権）

稲武野外合宿（宿泊研修）でのファシリテーション（4月24,25日）

・AIS あいち国際理解教育ステーションより4名の外部講師

「課題解決型話し合いのコツ～スマホ・LINEの落とし穴にWATCH!」

・ビジョン委員会担当者より、ESDの説明と今後の学校活動について

(2)第1回ESDセミナー（テーマ：環境）

「企業でのESD活動の取り組み」

講師：アイシン精機 安全衛生環境部 環境グループ 横山佳宗氏

(3)第2回ESDセミナー（テーマ：平和）

「レバノンでのシリア難民救援活動を通じて」

講師：第二赤十字病院国際医療活動部 関塚美穂氏（本校卒業生）

1年生4月入学当初の時点で、名東高校の教育目標、ESDを軸とした活動プログラムについて説明をし、ESDセミナーの前には赤十字の活動のパネルを展示、テーマである環境、平和について事前に調べ、考える時間も設定して各教科でもそれらのテーマに触れるように努めた。またセミナー後も内容についてのふりかえりとして、感じたこと・考えたことについて文章にし、話し合う時間も設けて講師の方へ文章を送り、返信もいただくなど双方向の実りある活動とすることができた。このプログラムを通してESDのテーマについて深く学び、話し合う力、表現力を育てることができた。

### ②自ら課題を設定し、調査研究を行い、探究する力に関わる学習

○2年生「ワールドスタディーズ」における学習活動

「ワールドスタディーズ」とはESDを柱とした本校の国際理解教育プログラムの中心となる学校設定教科である。世界の諸問題や国際協力の取組など1年次に学んだ内容をもとに、自ら課題を設定し、調査研究、探究するという目的でゼミ活動を実施した。

ESDの中から自分たちが深めたいテーマを選び、実際にNGOや企業に訪問して活動に参加させていただき、学んだことについて発表し、学校外の場でも発信し、自らの行動につなげていくことができた。主な訪問先は以下の団体（企業）である。

日本国際飢餓対策機構 [平和・貧困] /株式会社デンソー [ジェンダー平等、女性活躍] /多文化共生リソースセンター東海（多文化共生）/名古屋YWCA [人権] /EPO 中部 [環境]

### ③国際理解、文化多様性に関わる学習

○様々な国からの留学生、学校訪問の団体を受け入れ、交流することにより、国際理解、文化多様性への理解を深め、コミュニケーション力を伸ばすことができた。

(1)長期留学生：スイス、ドイツ、メキシコ、フランス、タイ

(2)短期留学生、学校訪問：韓国城南外国語高校（姉妹校）、インドネシアコタバル高校、姉妹都市交流：オーストラリア、アメリカ(L.A.)

(3)世界授業研究学会 国際大会参加—北欧、米国、アジアの学校の先生方を中心に名古屋大学からの依頼により本校での授業参観、意見交換会・生徒との交流を実施した。

○1,2年生の生徒が「自らの行動へつなげる」ことを目標に以下の活動を全校生徒へ呼びかけて実施、成功させることができた。

(1)メキシコ地震募金活動：メキシコからの留学生が在籍するクラスが名東高校全体へ地震救済のための募金活動を提案。メキシコシティは姉妹都市なので、名古屋市国際交流課とも連携し寄付。メキシコの生徒たちから御礼のビデオレターを受け取った。

(2)ハガキで世界がHappyになるプロジェクト：全校生徒、保護者、中学生など外部にも呼びかけて書き損じハガキを集めてNPO法人アイキャンと連携し、集まったお金でフィリピンに学校を建てる資金とし、将来的に名東高校とその学校が交流することを目標として実施。予想以上の枚数を集めることができた。

(3)WFP 給食の思い出/”Onigiri Action”「わたしから始める、世界が変わる」

～SNSで進める国際協力、世界のために私たち高校生ができること～

キャンペーン期間中、「WFP 給食の思い出」として SNS に投稿すると学校給食一食分（約 30 円）が協力企業により国連 WFP に寄付される。Onigiri Action ではおにぎりの写真や協力企業の商品とおにぎりと一緒に投稿すると給食が 5～10 食分アフリカ、アジアの子供たちに届く。以上の 2 つは生徒たちが主体となって自発的に提案し、生徒会も協力して会議を経て実施された活動である。

○オーストラリア語学研修

夏季休業中に 2 週間、ホームステイや現地の学校での活動を通して学ぶ。

○トビタテ！留学 JAPAN 派遣

フィンランドへ 2 名短期留学。学んだ内容を全校生徒へ発表、また外部でのユネスコスクール交流会、名古屋ユネスコ協会 ESD パスポート発表会などで発表。ESD、教育、環境、生活の豊かさについて深く考えるきっかけとなった。

④地域遺産学習活動：名古屋城英語ボランティアガイド

テーマ：「名古屋の魅力の世界へ発信～なごやおもてなし大作戦～」

ユネスコアシストプロジェクト（2015-16 年度。2017 年度以降は外国語研究部の活動として継続）普通科、国際英語科の 1～3 年生約 70 名が参加。名古屋城の魅力を英語（中国語、韓国語でもチャレンジ）で外国人観光客（中国、香港、台湾、韓国、アメリカ、オーストラリア、イギリス、スペインなど世界各国）や名古屋国際交流課からの依頼で姉妹都市のお客様（シドニー、L.A.）を英語でガイドした。準備段階ではボランティアガイドの団体にもお世話になり、内容を改善しながら様々な工夫をして取り組むことができた。



①ESD セミナー [平和]



② ゼミ活動 (EPO 中部)



③国際理解・交流



④名古屋城英語ボランティアガイド

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(1年生宿泊行事、合同 HR におけるESDセミナー:講演会 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

○名東高校オリジナル教材「ワールドスタディーズ」テキスト
○名東高校の協力団体からの資料、ウェブサイト
AIS あいち国際理解協カステーション、EPO 中部、名古屋ユネスコ協会、
○JICA 中部 ○国際連合広報センター(SDGs) など

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

名東高校の教育目標である「平和を愛し、広い国際的視野に立つ人間の育成」、「心身共に健全で、自主自立の精神を持つ人間の育成」からみえる育てたい生徒像は「世界中どこでも役に立つ人になろう」という言葉に集約される。本校の国際教育推進部が推進してきたESDの精神とユネスコスクールとしての活動を、ホールスクール・アプローチとするために、今年度はビジョン委員会が中心となって「名東の教育—名東版ESD」を策定し、ESDを軸として日々の授業、学校行事、部活動など様々な活動を通して成長の働きかけをするよう取り組んでいる。学校行事の改善では1年次の宿泊研修でのワークショップ、ガイダンス、ESDセミナーの実施、2018年度からは普通科修学旅行を広島拠点での研修に変更し、総合学習にもESDの内容を入れ、事後プレゼンテーションも実施する。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

国際教育推進部とビジョン委員会で、協力して「名東版ESD」を実践、内容を全職員で共有している。また、学期に1回、教員がグループに分かれて分散会を行い、様々な取り組みの報告や意見交換、より良い名東版ESDプログラムに向けての話し合いを行っている。その結果を踏まえてビジョン委員会で方向性を策定、計画して、各教科、各学年での実施。また、年に2回程度、教員対象のファシリテーション講座を実施している。(講師：NIED 国際理解教育センター、AIS あいち国際理解ステーション)

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

「活動内容」において示した生徒によるESD活動の発表成果

- ・ 2017年度愛知学長懇話会 ESD サステナビリティ・リレーシンポジウム 最優秀賞「ESDの視点から見た教育の理想像～フィンランドの体験から」
- ・ 2017名古屋ユネスコ協会主催 ESD 体験発表会 「世界遺産の実情」
- ・ 2017 ESD コンソーシアム愛知 [中部大学 ESD 拠点] 優秀賞
- ・ 市立高校生のための国際フォーラム(名東高校の実践、名古屋城ガイド)
- ・ ユネスコアシストプロジェクト2018年度 採用決定。—ゼミ活動—

以上のように外部での発表において高く評価して頂いている。生徒たち自らが計画し、行動したい、このような活動を行いたいと言ってくるのが多くなり、今後もこのような生徒を育てたい。課題はホールスクール・アプローチをさらに発展させていくことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・2017 年度愛知学長懇話会 ESD サステナビリティ・リレーシンポジウム  
(於 名古屋市立大学)  
最優秀賞「ESD の視点から見た教育の理想像～フィンランドの体験から」  
・2017 名古屋ユネスコ協会主催 ESD 体験発表会 (於 名古屋市立北高校)  
・2017 ESD コンソーシアム愛知 [於 中部大学 ESD 拠点]  
「世界中どこでも役立つ人になるために～名東高校での実践～」  
・市立高校生のための国際フォーラム (名東高校の実践、名古屋城ガイド)  
・ユネスコアシストプロジェクト 2018 年度 採用決定。—ゼミ活動—  
・マララ氏への手紙 (コミュニケーション英語 I の授業で全 1 年生で実施。英語でのスピーチコンテスト。優秀者によるビデオ、クラスによる手紙を実際にマララさんへ送る取組)  
地元の中日新聞の記事としていくつかの活動 (名古屋城英語ガイド、マララへの手紙など) が取り上げられ、励みとなった。また中部大学での発表会でパラグアイのユネスコスクールの先生と知り合い、交流のきっかけとなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成 (地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

○ ESD コンソーシアム愛知  
○ NPO 法人アイキャン [書き損じハガキ、フィリピン絵手紙交流]  
○ 名古屋ユネスコ協会との連携 (ESD パスポート体験発表会など)  
○ 愛知県教育委員会による愛知県ユネスコスクール交流会  
○ 愛知学長懇話会: 名古屋市立大学人文社会学部 ESD 曾我ゼミ  
○ 環境省パートナーシップオフィス EPO 中部との連携  
○ ESD 推進ネットワーク中部地域フォーラム  
○ 南山大学外国語学部 浅野先生 ○名古屋大学 ○JICA 中部

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

○ ESD コンソーシアム愛知 中部大学において発表、交流  
○ 名古屋ユネスコ協会主催 ESD パスポート体験発表会において発表、交流会  
○ 愛知学長懇話会によるリレーシンポジウムにおいて高大連携。  
—高校生と大学生混合のグループをつくり、持続可能な都市についてそれぞれの発表内容も活用して考え、最後に提言として各グループでから全体へ発表。大学生、他校の高校生からも刺激を受け、とても充実した交流をすることができた。  
○ 中部大学 ESD 拠点において名古屋城英語ガイドも含めた発表をしたところ、パラグアイのユネスコスクールの先生の発表があり、その学校も観光ルートについて環境をテーマに開発しており、ぜひ交流したいという依頼を受け、教員・生徒派遣交流プログラム実施に向けて現在、進めているところである。  
○ 2018 年度、広島への修学旅行の際にユネスコスクールである広島大学附属高校との交流も計画している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

学校経営の面において、当初は本校国際教育推進部の少数の教員（英語科、社会科）が中心となって推進してきたESDの精神とユネスコスクールとしての使命を、ビジョン委員会というより大きな、学校全体の教育方針を考える部署が連携して方針を策定し、学校全体に発信して職員全体で共有し、学校行事の内容変更をはじめ教育活動の充実につなげることができた。ESDを軸として教科科目、学校行事、部活動など様々な活動を通しての働きかけを進めていく上で AIS あいち国際理解ステーション等からの協力、アドバイスも受けながら、様々な教科の教員の知恵を出し合い創り上げていくことができた。

また、ユネスコスクールとしての活動報告をここ数年外部に向けて様々な機会を捉えて教員、生徒とも行ってきたので、ESDコンソーシアム愛知やEP0中部、名古屋市立大学、NGO団体、名古屋ユネスコ協会、名古屋市国際交流課とつながりができ、様々な発表会や活動の場に声をかけていただくようになった。これらの機会を活かして連携や交流をしながら内容を深めていくことができた。生徒たちも自らの「行動」についてより深く考えるようになり、活動の提案をすることが増えてきた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 「名東版ESD」（ESDを軸とした教育活動プログラム）の実践  
名東の教育 Go Global! Go Higher! GO For It!  
「世界中どこでも役立つ人になろう」
- 1年生 4月稲武合宿ファシリテーション・ワークショップ（人権）  
名東ESDガイダンス  
10月、1月 ESDセミナー2回（テーマ：環境、平和）
- 2年生 広島を拠点とした研修旅行（ESDを軸とした研修内容、フィールドワーク、班別研修、レポート作成、事後プレゼンテーション）  
「総合的な学習の時間」を利用した事前事後学習「広島学」、  
広島大学附属高校（ユネスコスクール）との交流
- 2年生 ゼミ活動（ESD、SDGsからのテーマ）  
NGOや企業への訪問、活動への参加。事後プレゼンテーション、自らの行動へつなげる。国際英語科の生徒：台湾または韓国への修学旅行において姉妹校交流、発表。
- 名古屋城英語ボランティアガイドを熱田神宮もガイドできるようにする。  
○ハガキで世界をHappyにするプロジェクト（JRC部、生徒会と連携、継続）  
○学校祭でのユネスコスクールとしての取組の発表。様々な外部での発表の機会を捉えて取組の発信。外部の連携団体、大学との活動内容についてのさらなる交流、深化。  
○名古屋ユネスコ協会の活動への参加、協力。